

ご 挨拶

平成23年3月11日の東日本大震災は甚大な被害をもたらし、特に、宮城県の被害が大きく、津波により多くの水田が作付出来ない状況にあります。さらに、福島第一原子力発電所で放射性物質が大量に放出し、深刻な状況にあります。被災された組合員・利用者に対して御見舞いと一日も早い復興を願っております。また、皆さまには、当JAの事業運営に格別なるご理解とご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。



本年も、当JAの経営内容を公開し組合員・利用者の皆さまが安心してご利用いただけるよう、ディスクロージャー誌を作成いたしましたので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、平成22年度の当JAの事業活動においては、第三次中期経営計画の総仕上げとして、「信頼・貢献・改革」をスローガンに掲げ、「農業づくり」「組織づくり」「地域づくり」「JAづくり」の4づくり運動を積極的に取り組みました。

特に、『組合員の参加・参画による生活・教育・文化活動の実践』として、JA女性全国大会でJA組織活動体験発表（北海道・東北ブロック代表）を行い、JAみやぎ仙南女性部の優れた取り組みを全国に知らしめました。また、役職員による除雪ボランティアや青年部・女性部による食農教育活動など、地域貢献を柱に実践しました。

また、農業を取り巻く環境は依然として、厳しい状況にあり、特にTPP参加交渉については日本の農業を守るため、断固阻止の姿勢で臨んでおります。

事業活動面では、仙南管内の基幹作物である稲作は、猛暑や収穫時期の長雨の影響で上位等級比率が32.2%と低迷し、課題を残すこととなりました。信用・共済事業においては、利用者への相談機能の発揮、組合員・利用者の総合保障の確立に向け取り組みました。

事業活動の成果は、震災の影響などもあり多くの事業部門で計画を下回り、事業総利益は29億3,100万円に留まりましたが、事業管理費の削減に努めた結果、事業利益2,200万円、経常利益7,700万円余を計上しました。しかし、大震災により被害を受けた農業倉庫や各種施設の解体・修繕のための特別損失を計上したため、当期は1億4,000万円の損失となりましたが、目的積立金及び前期繰越剰余金を充当し、当期末処分剰余金は1,300万円余となりました。組合員・利用者の皆さまに対し、改めて感謝を申し上げます。

なお、平成23年度は第四次中期経営計画・第四次仙南地域農業振興計画の初年度であり「大変革期における新たな絆の創造」を基本方針に掲げ、引き続き「農業づくり」「組織づくり」「地域づくり」「JAづくり」の4づくり運動を柱に、東日本大震災からの復旧・復興に全力で取り組んでまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成23年7月

みやぎ仙南農業協同組合
代表理事組合長 佐藤 良一